

整 え る



「片づけたい」という気持ちはあるけれど、忙しいし、片づけ方も分からないのでやる気が出ない。そこで、少しの手間でできそう！と思える本を集めました。

身辺整理、わたしのやり方

曾野綾子／著 興陽館 2017年

人でもものでも、それが一番喜ばれる場所、生きる空間に行かせてやりたい。使われもせず喜ばれもせずに放置されるなんて悲しいことに、私は耐えられない、と著者は述べています。

家に余計なものは置かない、どんな服でお棺に入るか決める、健康診断は受けない…。自らを「整理魔的性格」という著者の「人生の後始末」との向き合い方が綴られています。

片づけと整理のグッドアイデア集

柑成美緒／著 WAVE出版 2013年

この本は、汚い部屋に住んでいた著者が、「片づけ」と本気で向き合った一部始終です。すべての「持ち物」を書き出す、己の性格を知るべし、風呂敷は優等生等、様々なアイデアが述べられています。

長続きしなかったものは削除し、3年以上続いているアイデアのみ収録しています。普段の暮らしに役立てたい1冊です。

遺品整理屋は見た！

吉田太一／著 扶桑社 2006年

死ぬときは、多い少ないの違いはあれ、必ず何かしらの物をこの世に残していきます。さまざまな事情で引き取る人がいない遺品を引き取って処理し、孤独死されていた場合には、その遺体が残っていた痕跡を完全に除去し原状を回復するのが遺品整理屋の仕事です。

いつ自分が死んでも、残った家族や周囲の人に迷惑をかけないように用意しておくことが、「充実した今を生きる」ためにとっても大切なことと著者は主張します。

ドイツ流30分の家事整理術

沖幸子／著 幻冬舎 2003年

古いドイツの有名なことわざに「整理整頓は人生の半分」があります。自分のまわりが整理されていると、すべてがうまくいくということです。著者の、ドイツの友人達は、古い置物や家具もていねいに手入れをしながらいつまでも使いこなします。新しいモノを買い続けるより、古いモノを大切にすることがドイツ人にとって何よりも重要なのでしょう。

「無理な節約をしなくても、モノを大切にしていると自然に無駄がなくなります。これこそ心豊かな楽しい生活ではないでしょうか。」と著者は述べています。

令和4年5月

編集・発行：さいたま市立与野図書館 さいたま市中央区下落合5-11-11

TEL：048-853-7816 FAX:048-857-1946